

山梨県内の労働安全衛生の状況

～平成28年の労働災害発生状況と業務上疾病等の動向～

厚生労働省 山梨労働局 労働基準部健康安全課

平成28年1月1日から同年12月末日までに県下各労働基準監督署に提出された「労働者死傷病報告（休業4日以上）」、「健康診断結果報告書」及び「じん肺健康管理実施状況報告」を基に、県内の労働災害の現況及び労働衛生の現況を取りまとめました。各事業場においては、今後の労働災害防止及び労働衛生水準の向上を図るための参考としてください。

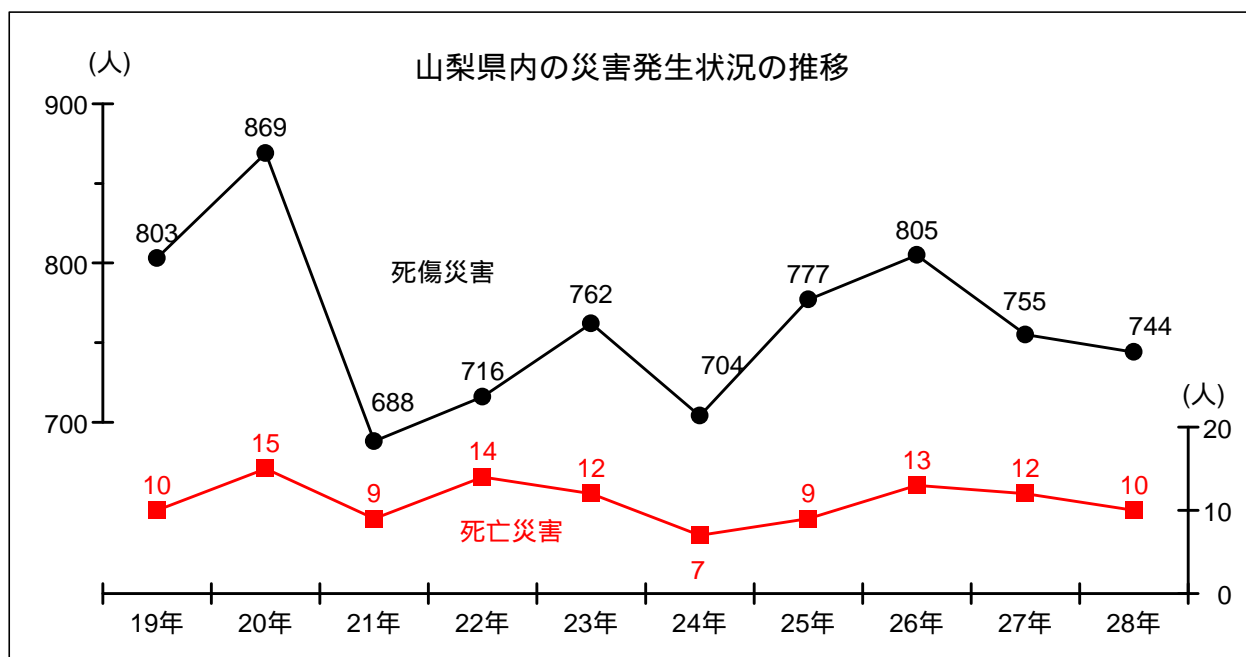
第1 山梨県内の労働災害発生状況

1 全産業における労働災害発生状況

県内の死傷者数は、昭和35年の3,856人をピークに減少を続けていきましたが、平成21年には688人まで減少し、その後いったん増加に転じたものの、平成27年から再び減少へと転じています。平成28年は744人と、前年比で11人減少(-1.5%)しましたが、未だ平成21年に比べて高い水準にあります。

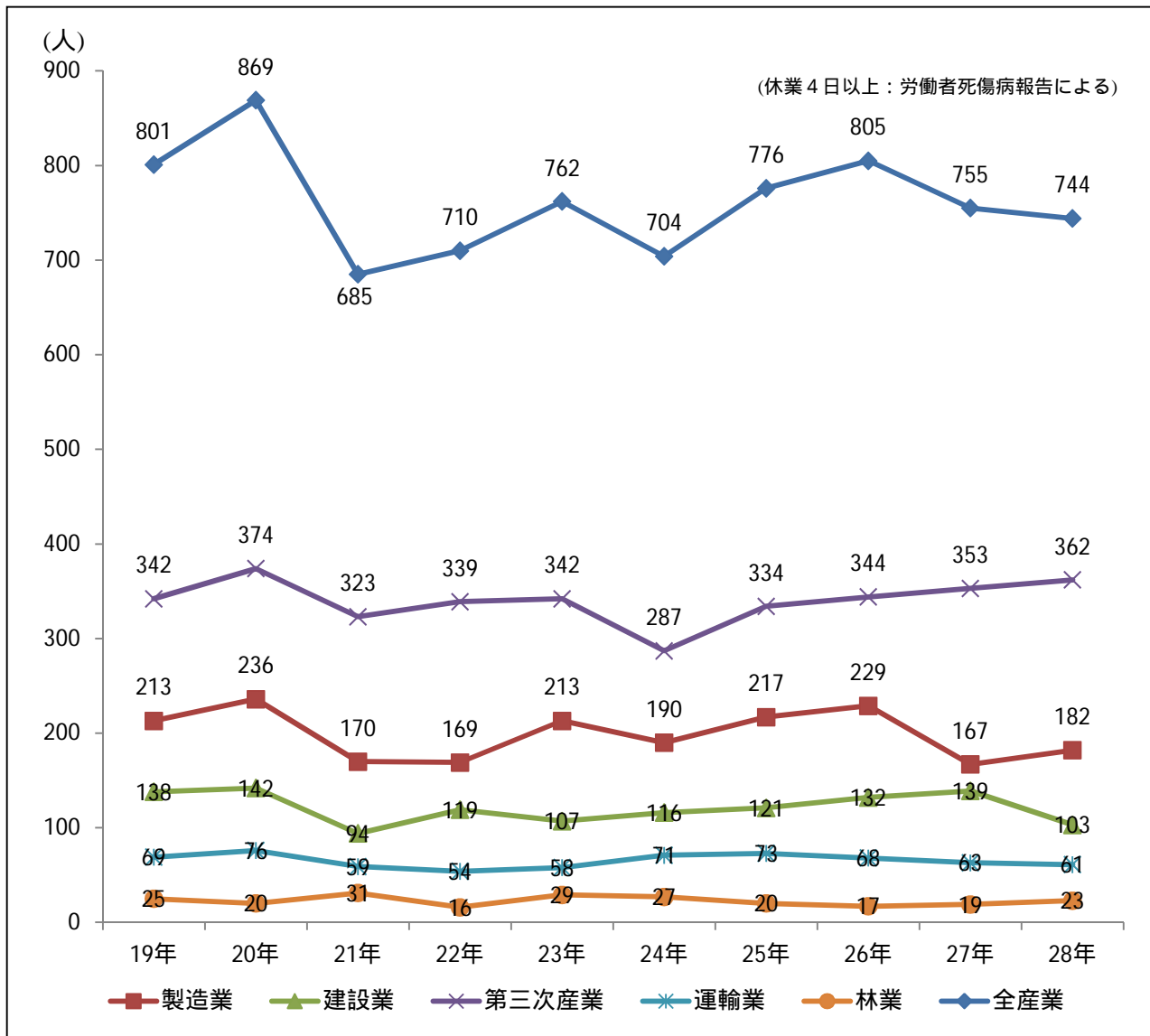
県内の死傷者数のうち死亡者は、昭和41年の59人をピークに増減を繰り返しながら長期的には減少傾向を示しており、平成28年は10人と前年に比べ2人減少(-16.7%)となりました。

平成29年については10月末現在、6人の尊い命が労働災害によって奪われており、引き続き労働災害の防止が重要な課題となっています。



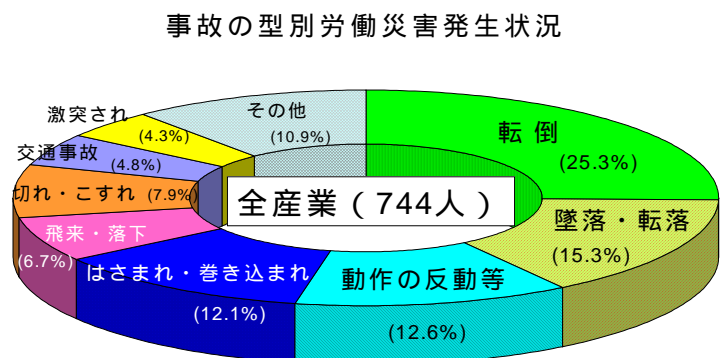
2 業種別労働災害発生状況

県内の平成28年における業種別の死傷者数を多い順にみると、製造業(182人)、商業(112人)、建設業(103人)、接客娯楽業(79人)、保健衛生業(72人)、運輸交通業(61人)の順となっています。前年と比べ、清掃業(+33.3%)、林業(+21.1%)、製造業(+9.0%)で増加した一方、金融・広告業(-30.0%)、建設業(-25.9%)、保健衛生業(-7.7%)で減少しました。なお第三次産業における死傷者数は362人と9人増加し、全産業中49.0%と半数近くを占める状況が続いています。



3 事故の型別労働災害発生状況（全産業）

事故の型別の死傷者数を多い順にみると、転倒(25.3%)、墜落・転落(15.3%)、動作の反動等(12.6%)、はさまれ・巻き込まれ(12.1%)の順となっており、例年の傾向と概ね同様です。



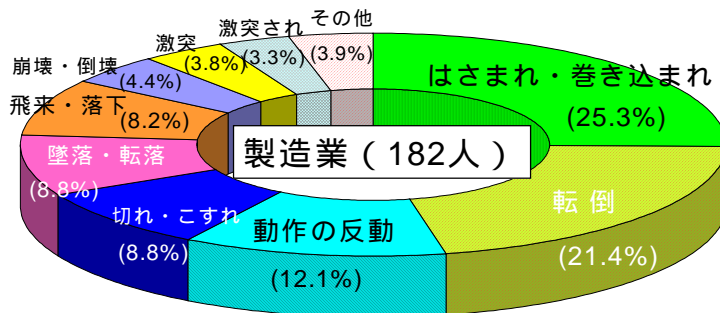
4 事故の型別労働災害発生状況（業種別）

(1) 製造業

製造業における事故の型別の死傷者数を多い順にみると、「はさまれ・巻き込まれ」(25.3%)、「転倒」(21.4%)、「動作の反動」(12.1%)、「切れ・こすれ」(8.2%)等の順となっています。

また死亡者数は「その他」(有害物との接触)が1人となっています。

製造業における型別労働災害発生状況

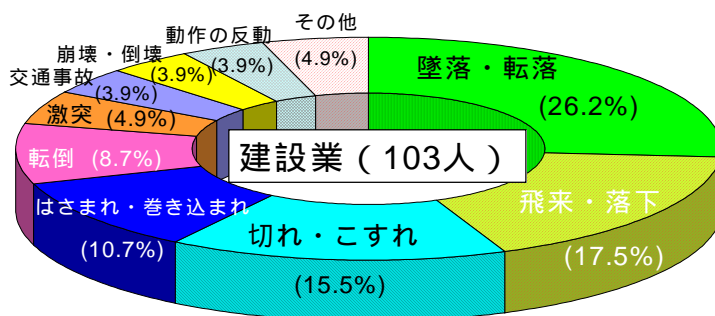


(2) 建設業

建設業における事故の型別の死傷者数を多い順にみると、仮設物や構造物等の高所からの「墜落・転落」(26.2%)、「飛来・落下」(17.5%)、「切れ・こすれ」(15.5%)、「はさまれ・巻き込まれ」(10.7%)、「転倒」(8.7%)等の順となっています。

また死亡者数は「墜落・転落」が2人、「飛来・落下」「崩壊・倒壊」「交通事故」が各1人となっています。

建設業における型別労働災害発生状況

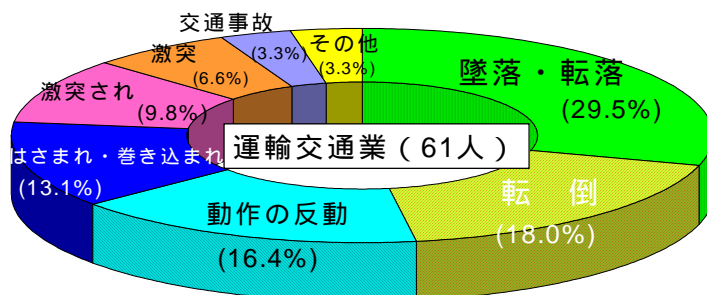


(3) 運輸交通業

運輸交通業における事故の型別の死傷者数を多い順にみると、「墜落・転落」(29.5%)、「転倒」(18.0%)、「動作の反動」(16.4%)、「はさまれ・巻き込まれ」(13.1%)、「激突され」(9.8%)等の順となっています。

また平成28年の死亡者はゼロでした。

運輸交通業における型別労働災害発生状況

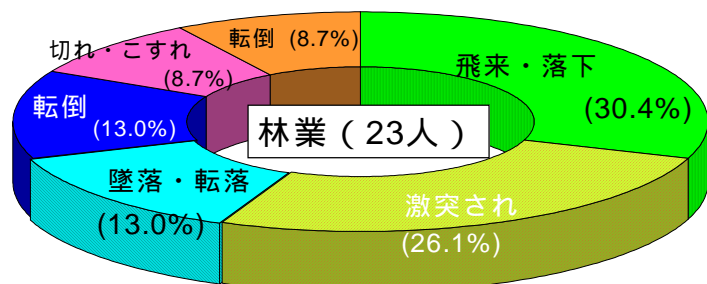


(4) 林業

林業における事故の型別の死傷者数を多い順にみると、「飛来・落下」(30.4%)、「切れ・こすれ」(21.1%)、「墜落・転落」(21.1%)、「転倒」(15.8%)、及び「激突され」(10.5%)等の順となっています。

また死亡者数は「激突され」が1人となっています。

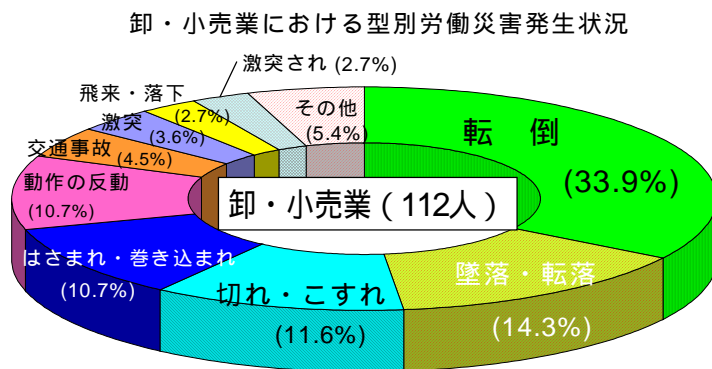
林業における型別労働災害発生状況



(5) 卸・小売業

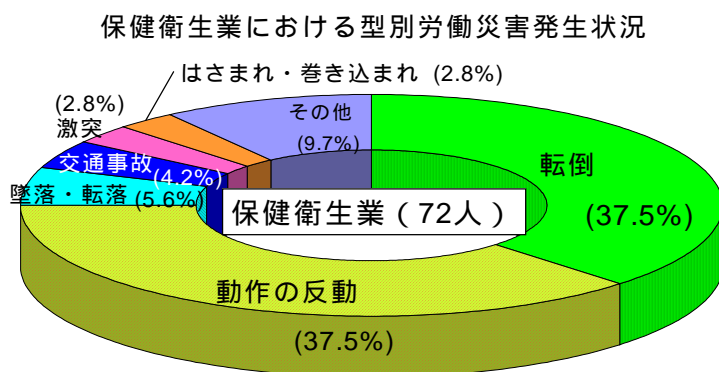
卸・小売業における事故の型別の死傷者数を多い順にみると、「転倒」(33.9%)、「墜落・転落」(14.3%)、「切れ・こすれ」(11.6%)、「はさまれ・巻き込まれ」(10.7%)等の順となっています。

また死亡者数は「墜落・転落」が1人となっています。



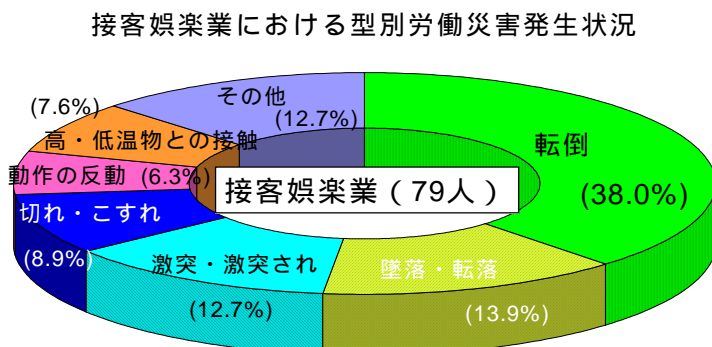
(6) 保健衛生業

保健衛生業における事故の型別の死傷者数を多い順にみると、「転倒」(37.5%)、「動作の反動等」(37.5%)、「墜落・転落」(5.6%)、「交通事故」(4.2%)等の順となっています。また平成28年の死亡者はゼロでした。



(7) 接客娯楽業

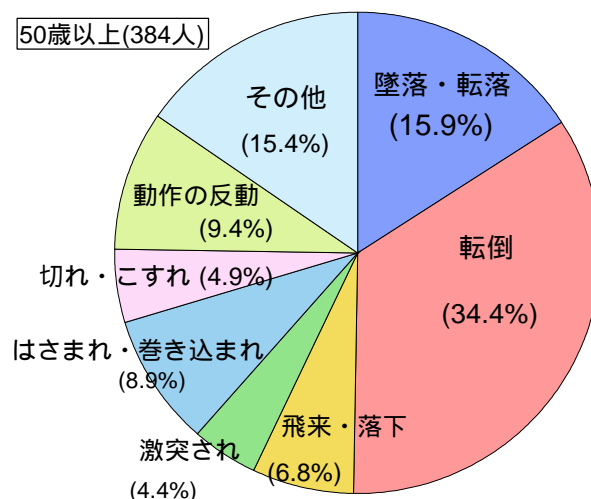
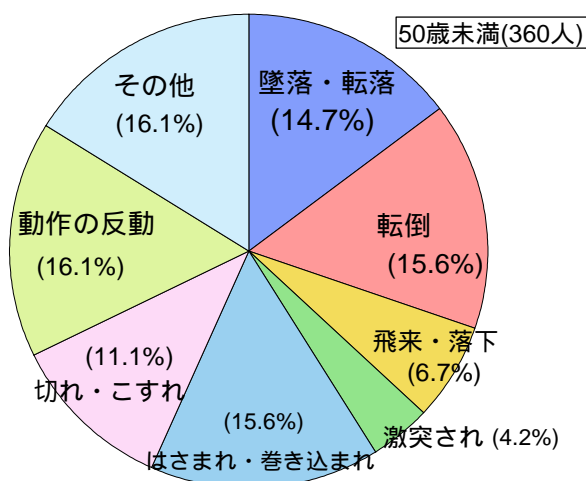
接客娯楽業における事故の型別の死傷者数を多い順にみると、「転倒」(38.0%)、「墜落・転落」(13.9%)、「激突・激突され」(12.7%)、「切れ・こすれ」(8.9%)等の順となっています。また平成28年の死亡者はゼロでした。



6 年齢別労働災害発生状況

全産業の死傷者数を年齢で区分すると、50歳未満が360人、50歳以上が384人となっており、半数以上を50歳以上が占めています。

また事故の型別に見ると、転倒災害は50歳未満では15.6%であるのに対し、50歳以上では34.4%と2倍以上の比率を占めています。

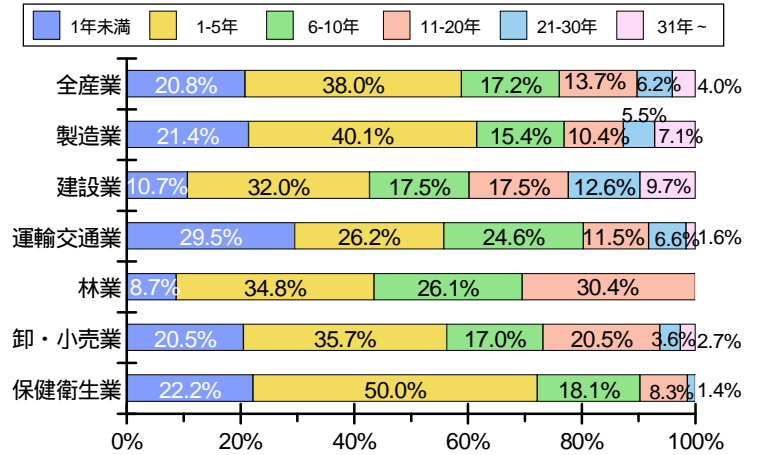


7 経験年数別労働災害発生状況

全産業の経験年数別の死傷者数を多い順にみると、1～5年(38.0%)、1年未満(20.8%)、6～10年(17.2%)、11～20年(13.7%)、21～30年(6.2%)、31年以上(4.0%)の順となっており、5年以下の経験の浅い労働者が58.8%と過半数を占めています。

また業種別にみると、保健衛生業では経験年数5年以下の労働者の割合が72.2%と特に高くなっています。

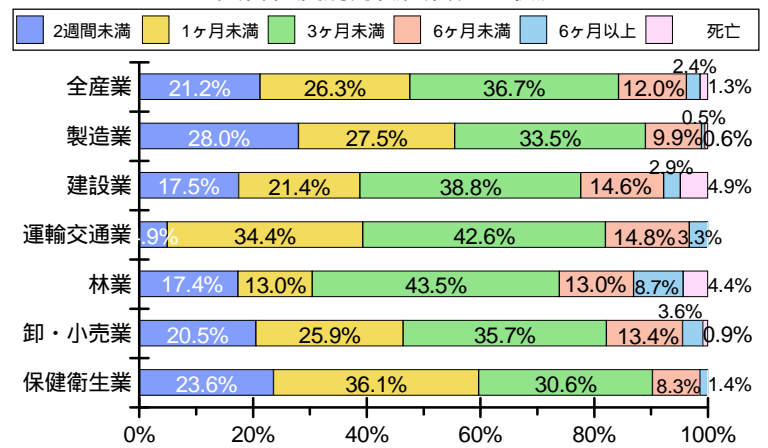
経験年数別労働災害発生状況



8 災害程度別労働災害発生状況

全産業の災害程度別の死傷者数を多い順にみると、1ヶ月以上3ヶ月満(36.7%)、2週以上1ヶ月未満(26.3%)、4日以上2週間未満(21.2%)、3ヶ月以上6ヶ月未満(12.0%)の順となっており、休業見込日数1ヶ月以上の重篤な災害(死亡含む)が過半数の52.4%を占めています。

災害程度別労働災害発生状況



10 労働基準監督署別労働災害発生状況

平成28年・27年 1月～12月死傷災害(休業4日以上)比較表

山梨労働局

確定値

業種別	合計																業種別									
	当年				前年				増減数				増減率													
	死亡	死傷	死亡	死傷	増減数	増減率	死亡	死傷	死亡	死傷	増減数	増減率	死亡	死傷	死亡	死傷										
全産業	10	744	12	755	-11	-1.5	5	498	9	536	-38	-7.1	1	191	1	160	31	19.4	4	55	2	59	-4	-6.8	全	
1 製造業	1	182	1	167	15	9.0	1	117	1	110	7	6.4	0	54	0	35	19	54.3	0	11	0	22	-11	-50.0	1	
食料品		59		50	9	18.0		52		41	11			6		4	2			1		5	-4			
木材・木製品		6		6	0	0.0		2		4	-2			2		1	1			2		1	1			
家具・装備品		2		2	0	0.0		1		1						1	-1			1		1	0			
パルプ・紙・印刷		7		7	0	0.0		4		4	0			2		1	1			1		2	-1			
化学		12		13	-1	-7.7		9		7	2			2		4	-2			1		2	-1			
窯業・土石製品		9		12	-3	-25.0		3		8	-5			5		3	2			1		1	0			
鉄鋼・非鉄金属		8		3	5	166.7		1		1	0			6		1	5			1		1	0			
金属製品	1	21		20	1	5.0	1	12		14	-2			7		3	4			2		3	-1			
一般・電気・輸送用機械		42		38	4	10.5		25		22	3			17		13	4					3	-3			
上記以外の製造業		16		16	0	0.0		8		9	-1			7		4	3			1		3	-2			
2 土石採取業		1		1	0	0.0				1	-1					1	1			0		0	0		2	
3 建設業	5	103	3	139	-36	-25.9	2	60	2	92	-32	-34.8	0	31	1	28	3	10.7	3	12	0	19	-7	-36.8	3	
土木工事	3	37	2	46	-9	-19.6		19	1	28	-9			9	1	4	5			3	9	14	-5			
建築工事	2	51	1	68	-17	-25.0	2	31	1	46	-15			19		18	1			1		4	-3			
その他の工事		15		25	-10	-40.0		10		18	-8			3		6	-3			2		1	1			
4 運輸交通業	6	1	2	63	-2	-3.2	0	47	2	52	-5			0	11	0	11	0		0	3	0	0	3		4
鉄道・軌道・水運・航空業、道路旅客運送業		4		8	-4	-50.0		1		5	-4				3		3	0						0		
道路貨物運送業(その他の運輸交通業を含む)		57		2	55	2	3.6		46	2	47	-1			8		8	0			3		3			
5 貨物取扱業		1		1	0	0.0		1		1	0	0.0					0						0			5
6-2 林業	1	23	2	19	4	21.1		8		9	-1			8		8	0			1	7	2	2	5		6
8 商業	1	112	2	104	8	7.7		81	2	82	-1			1	20		16	4			11		6	5		8
9 金融・広告	1	7		10	-3	-30.0	1	7		10	-3						0						0			9
13 保健衛生業	7	2	7	8	-6	-7.7	5	7	6	8	-1			13		9	4			2		1	1		13	
14 接客娯楽業	7	9	7	9	0	0.0	0	45	0	36	9			0	29	0	39	-10		0	5	0	4	1		14
ゴルフ場		26		23	3	13.0		8		4	4				15		16	-1			3		3	0		
上記以外の接客娯楽業		53		56	-3	-5.4		37		32	5			14		23	-9			2		1	1			
15 清掃業	4	8	3	6	12	33.3		31		28	3			15		6	9			2		2	0		15	
6-1・7・10・11・12・16・17 上記以外の業種	1	55	2	58	-3	-5.2	1	44	2	47	-3			9		8	1			2		3	-1		上記以外	
(参考) 第三次産業(8-17号)	3	362	4	353	9	2.5	2	254	4	262	-8	-3.1	1	86	0	76	10	13.2	0	22	0	15	7	46.7		

1 1 死亡災害事例 - 平成28年に発生した死亡災害 -

確定値

番号	発生日 発生地	年齢 性別	業種 職種	事故の型 起因物	災害の概要	
1 甲府	1. 4 甲府市	67 男	その他の事業 (その他) 運転手	交通事故 乗用車、バス、バイク	運転代行業の労働者である被災者が会社の軽自動車を運転し、片側2車線の直線道路を走行していたところ、対向車線を走行中の普通乗用車が反対車線に飛び出して来たため、正面衝突し車外に投げ出された。	
2 甲府	1. 8 甲斐市	50 男	建設業 (その他の 建築工事業) 補助員	墜落、転落 建築物、構築物	店舗解体工事において、ベランダ上で廃材等の清掃を行っていた被災者が、既に梁を外した箇所のコンクリートスラブに乗った際、スラブが長さ約7.2m、幅93cmにわたって崩落し、スラブとともに約3mの高さから墜落した。	
③ 鉾沢	2. 3 南部町	75 男	建設業 (その他の 土木工事業) 補助員	交通事故 トラック	積載荷重4トンのダンプトラックを運転し、緩やかな下り坂の林道を走行中、左側法面に衝突後、右側の林道路肩からダンプトラックごと斜面を約60m転落した。	
4 甲府	2. 11 甲府市	23 男	めっき業 製造工	有害物との 接触 異常環境等	金属の熱処理工程で使用する液体窒素の入ったボンベの減圧作業を行っていた被災者が、当該ボンベの前で倒れているところを発見され、病院に搬送されたがその後低酸素脳症で死亡した。	
⑤ 鉾沢	2. 16 南部町	41 男	建設業 (トンネル建設 工事業) 坑内夫	飛来、落下 その他の 建設機械等	トンネル工事において、覆工コンクリートの打設に先立ち、コンクリート圧送配管に先送りモルタルを送ったところ、配管が閉塞したため、閉塞を解消後、コンクリート打設を開始したところ、何らかの原因により配管からコンクリートが飛び出し顔面に当たった。	
6 都留	3. 22 都留市	44 男	商業 (その他の商業) 整備工	墜落、転落 高所作業車	事業場の車両置場において、ブームを最大限伸ばした高所作業車(作業床の高さ27メートル、積載荷重200キログラム)の作業床の上で点検等を行っていたところ、安全帯を着用していなかったため、地上に墜落し、死亡したものの。	
7 鉾沢	4. 11 身延町	63 男	木材伐出業 作業員	激突され 立木等	山林内で、高さ約25メートル、伐根直径28センチ(胸高直径22センチ)の雑木をチェーンソーを使って伐倒していたところ、伐倒木の根元が縦に裂け、裂けた木が被災者の胸部及び頭部に激突、死亡したものの。	
⑧ 鉾沢	8. 19 南部町	64 男	建設業 (道路建設 工事業) 重機オペレータ	墜落、転落 移動式クレーン	林道の修繕工事のため、クレーン仕様のドラグ・ショベルでコンクリートバケットをつり上げ林道谷側に向けて旋回を行ったところ、ドラグ・ショベルが傾き林道下に転落。運転席から投げ出された被災者がドラグ・ショベルのバケットとコンクリートバケットの間にはさまれたものの。	
9 甲府	11. 10 甲斐市	69 女	保険業 保険外交員	交通事故 乗用車、バス、バイク	事務所前の敷地でエンジンのかかった乗用車の前方に倒れている被災者を同僚が発見。救急隊を待っている間に乗用車のエンジンを切ったところ、乗用車が動きだし、被災者を轢いて私道に出て止まったもの。乗用車は被災者が通勤のために乗ってきた本人所有のもので、敷地は約8度の下り勾配となっていた。	
10 甲府	12. 5 甲府市	56 男	建設業 (木造家屋建築 工事業) 大工	崩壊、倒壊 その他の 用具	傾斜地に置かれた鉄製ラック内に立て掛けた外壁パネルを搬出するため、外壁パネル上端に移動式クレーンの吊りクランプを掛けようと、被災者が外壁パネルの開口部分に足を掛けて乗り上げたところ、重心が偏ったことにより鉄製ラックが横転し、鉄製ラック枠と外壁パネルに頭部を挟まれたもの。	

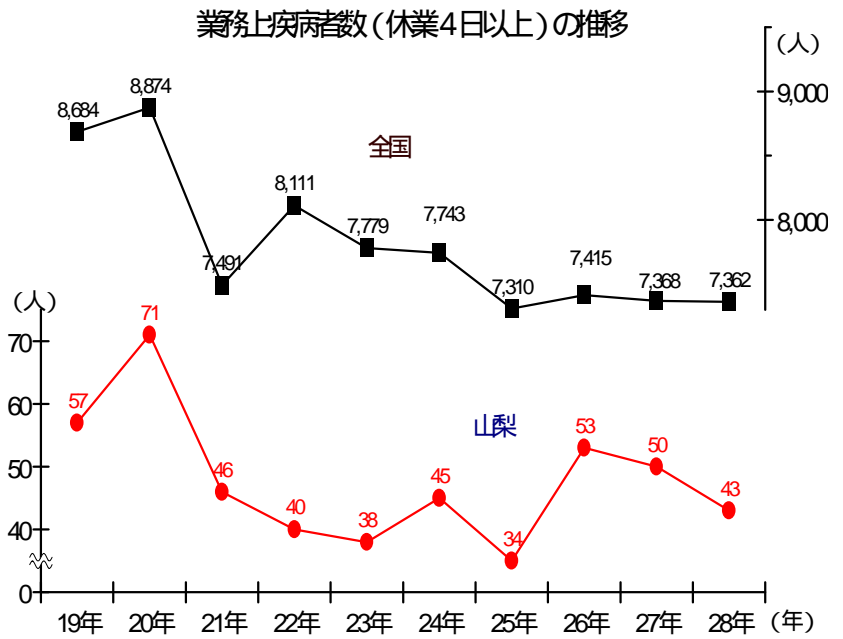
(注) 番号に○のついているものは公共工事を示す。

第2 労働衛生の現況

1 業務上疾病の発生状況

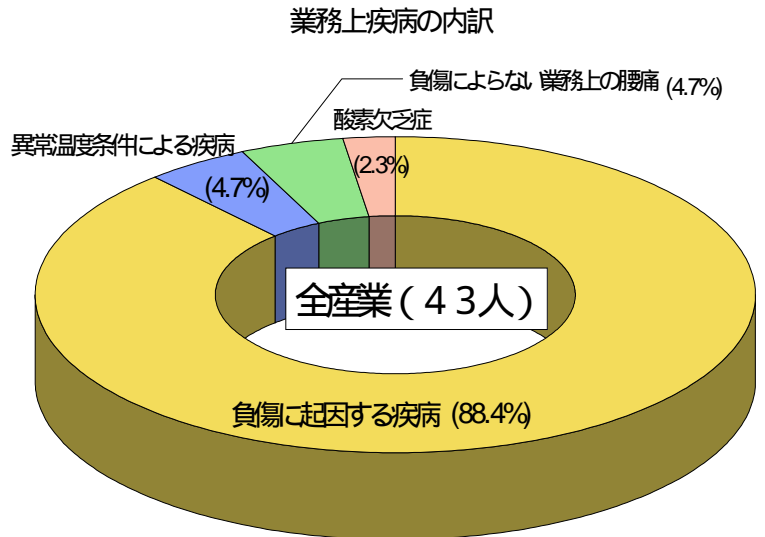
全国の業務上疾病者数は長らく増加傾向にありましたが、平成21年に大幅に減少し、平成25年以降は7,300人前後で推移しています。

山梨県内については、平成26年に一旦増加したものの、その後再び減少傾向が続いています。平成28年は43人と、前年と比べ7人減少(-14.0%)しました。



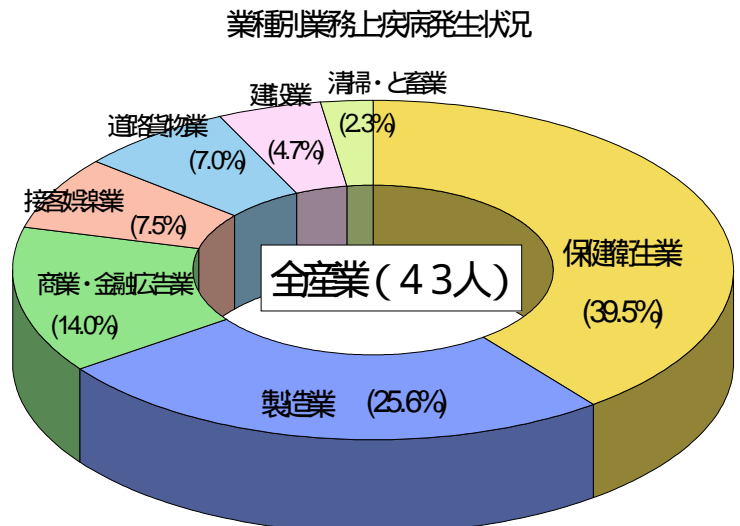
2 業務上疾病の内訳

県内の疾病分類別の業務上疾病者数をみると、負傷に起因する疾病は38人で全体の88.4%を占めています。また38人のうち35人が腰痛で、全体の81.4%を占めています。



3 業種別業務上疾病発生状況

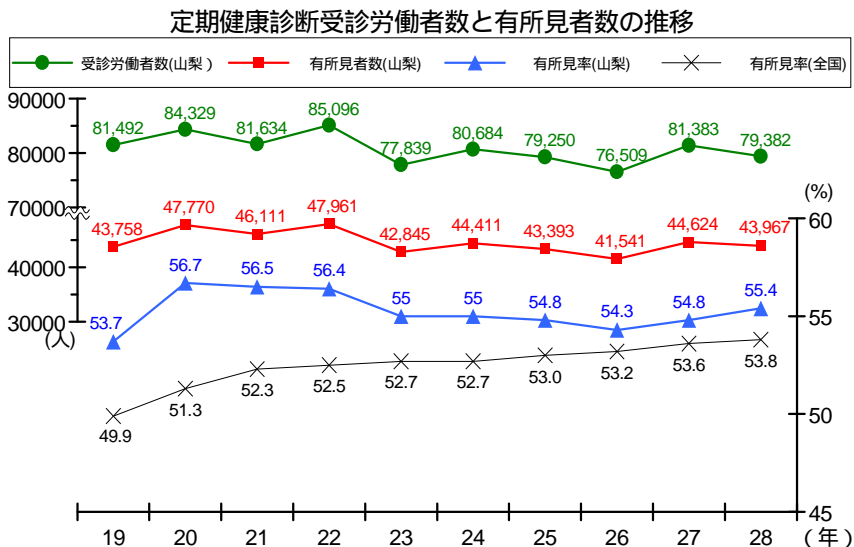
県内の業種別の業務上疾病者数を多い順にみると、保健衛生業(39.5%)、製造業(25.6%)、商業・金融広告業(14.0%)の順となっており、前年同様、保健衛生業の割合が大きくなっています。



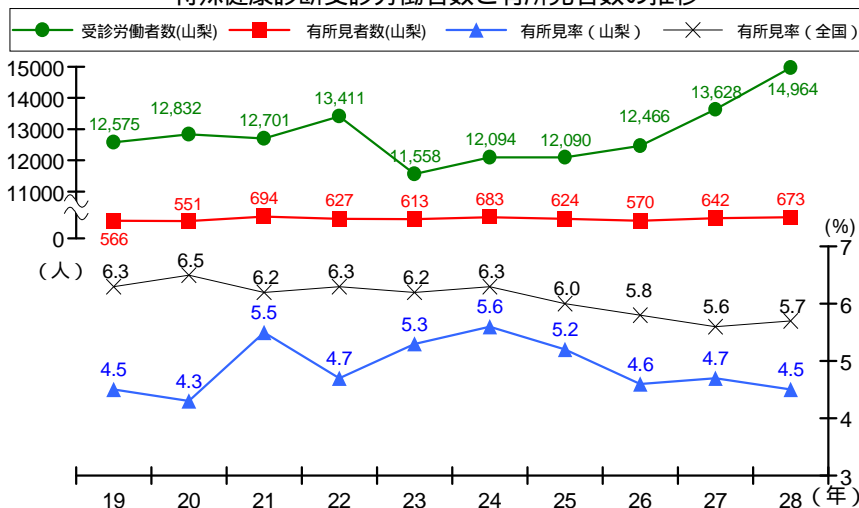
4 定期健康診断実施状況

平成28年の定期健康診断の県内の受診労働者数は約8万人でした。

有所見率は平成17年以降50%を超えた状態が続いており、平成28年は55.4%と、全国の有所見率を1.6ポイント上回っています。



特殊健康診断受診労働者数と有所見者数の推移



5 特殊健康診断実施状況

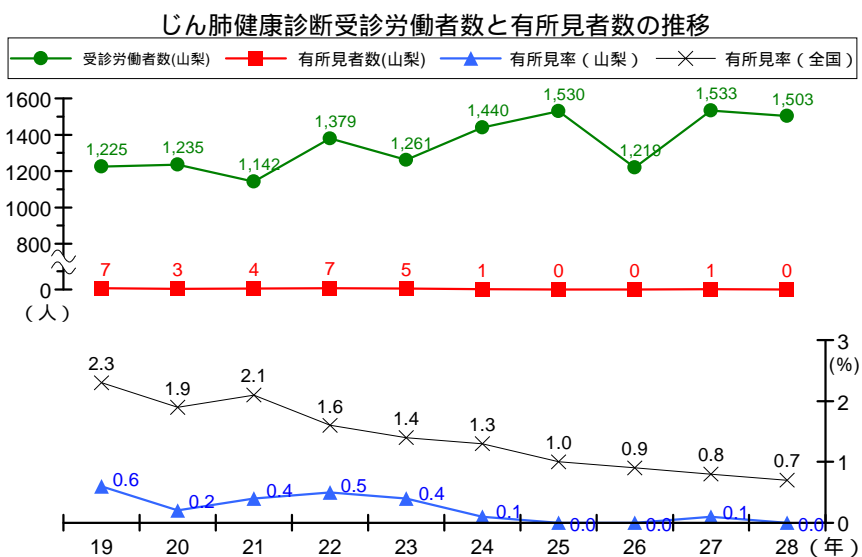
平成28年の特殊健康診断の県内の受診労働者数は約1万5千人で、有所見者は673人でした。

県内の有所見率は4.5%と、全国の有所見率を1.2ポイント下回っています。

6 じん肺健康管理実施状況

じん肺健康診断の県内の受診労働者数は、長期的には増加傾向にあり、平成28年は1,503人でした。

県内の新規有所見者数は年々減少しており、平成28年は0人でした。



お問い合わせは 山梨労働局 または 各労働基準監督署へ

山梨労働局労働基準部健康安全課 TEL055-225-2855

甲府労働基準監督署 TEL055-224-5617 都留労働基準監督署 TEL0554-43-2195

鯉沢労働基準監督署 TEL0556-22-3181

山梨労働局ホームページ <http://yamanashi-roudoukyoku.jsite.mhlw.go.jp/>